

放射能濃度を監視

リアルタイム数値閲覧

NTT-AT 住民の安全確保支援

NTTアドバンステクノロジ（NTT-AT、川崎市幸区、木村丈治社長、044・280・8811）は、環境放射線のモニタリングサービスを拡充する。従来の空間放射線量率に大気中の放射能濃度を対象に加え、4月に提供を始める。携帯電話網を使って、測定機器からクラウドサーバーにデータを伝送し、リアルタイムにデータを監視・閲覧できる。自治体や関連団体などに提供し、住民の安全確保に役立てる。



NTT-ATはサー

ビスに必要な環境放射線を監視する測定機器の設計・施工から保守・運用まで行う。状況に応じて衛星回線や専用線など多様な伝送方式で設計し、太

陽光パネルとバッテリーによる自立電源での屋外設置にも対応する。

現在の空間放射線量率を測定するサービスは、20サイトに導入済み。新たに放射能濃度の測定も加えて、3年後に現行比2倍の40サイトへの導入を目指

国の原子力災害対策指針は2011年3月の東日本大震災で発生した福島第一原発事故を機に大きく転換した。空間放射線量率については従来のシミュレーションではなく、原子力施設に隣接する地域を含め測定機器を

設置しリアルタイムの測定数値を活用する方法に変わった。これを受け、空間放射線量率の測定機器の配備が進んだ。今後は16年9月の同指針で示された緊急時モニタリング体制の整備にあたり放射能濃度への対応が必要となる。

そのため、NTT-ATは放射能濃度を追加し、環境試料中の放射能濃度や気象データの取り込みも視野に入れ、放射線防護に役立つ包括的なサービスを提供していく。